

NUAL (ニューアル) は Nagoya University Alumni Association の略称です。

赤崎 勇 名古屋大学特別教授が京都賞を受賞



京都賞は、科学や文明の発展、また人類の精神的深化・高揚に著しく貢献した方々の功績を讃える国際賞です。毎年、先端技術部門、基礎科学部門、思想・芸術部門の各部門に1賞、計3賞が贈られます。

赤崎特別教授は2009年度に先端技術部門一対象分野：エレクトロニクスにおいて受賞されました。

(提供：稲盛財団2009)

The Kyoto Prize is an international award that honors individuals who have contributed significantly to the progress of science, the advancement of civilization, and the enrichment and elevation of the human spirit. The Prize is presented annually in each of the following three categories: Advanced Technology, Basic Sciences, and Arts and Philosophy.

University Professor Isamu Akasaki received the 2009 Kyoto Prize in the category of Advanced Technology for his contribution in the field of Electronics.

(Photo: Inamori Foundation 2009)



理系教養科目の一環で赤崎記念研究館を見学する名古屋大学生

(提供：竹田美和教授)

Nagoya University science students visit the Akasaki Institute as part of their general education curriculum.

(Photo: Professor Yoshikazu Takeda)

Contents

特集1 赤崎勇特別教授 京都賞受賞記念
「活躍する会員たち 特別編集企画」・・・2

Nual People in Action Special Edition:
Kyoto Prize Laureate University Professor Isamu Akasaki

特集2 名古屋大学の国際化を支える
全学同窓会海外支部・・・5

Overseas Branches of Alumni Association Support
Internationalization at NU

同窓会ニュース・・・7
NUAL News

大学ニュース・・・14
Nagoya University News

事務局からのお知らせ・・・16
From the NUAL Office

赤崎勇特別教授 京都賞受賞記念「活躍する会員たち 特別編集企画」 Nual People in Action Special Edition: Kyoto Prize Laureate University Professor Isamu Akasaki

赤崎特別教授は2009年に先端技術部門—対象分野：エレクトロニクスにおいて京都賞を受賞されました。そこで、本受賞につながる研究生活を含め、名古屋大学での思い出をしたためていただきました。



- 1952年3月 京都大学理学部卒業、4月、神戸工業(株)(現、富士通(株))入社
- 1959年4月～ 名古屋大学助手(工学部電子工学科)、同講師、同助教授を経て
- 1964年4月～ 松下電器産業(株) 東京研究所基礎第4研究室長、半導体部長を経て
- 1981年8月～ 名古屋大学教授(工学部電子工学科)
- 1987年3月～ 新技術開発事業団《現(独)科学技術振興機構》「GaN系青色発光ダイオード」研究開発責任者(1990年9月まで)
- 1987年～ 文部省学術審議会専門委員(1994年まで)
- 1988年5月～ 日本電信電話(株) 研究開発本部技術顧問(1992年4月まで)
- 1992年4月～ 名城大学教授、名古屋大学名誉教授
- 1993年3月～ 新技術事業団《現(独)科学技術振興機構》「GaN系短波長半導体レーザ」研究開発責任者(1999年9月まで)
- 1995年4月～ 北海道大学客員教授(量子界面エレクトロニクス研究センター)(1996年3月まで)
- 1996年7月～ 日本学術振興会「未来開拓学術研究推進事業」プロジェクトリーダー(2001年3月まで)
- 1996年7月～ 文部省「名城大学ハイテク・リサーチ・センター」代表研究者(2004年3月まで)
- 1999年7月 フランス・モンペリエ市名誉市民
- 1999年11月 フランス・モンペリエ大学名誉博士
- 2001年4月～ 名古屋大学赤崎記念研究センター(兼務)
- 2001年5月 スウェーデン・リンショピン大学名誉博士
- 2002年～ (独)科学技術振興機構参与(2004年まで)
- 2003年～ 経済産業省「高周波プロジェクト:ワイヤレスデバイス研究開発戦略委員会」委員長(2006年まで)
- 2004年～ 名城大学 窒化物半導体研究センター(代表研究者)
- 2004年12月～ 名古屋大学特別教授
- 2008年10月～ 米国工学アカデミー外国人会友
- 2010年4月～ 名城大学終身教授

工学博士

思い出すまに

私が熱を伴わない発光である“ルミネッセンス”に出会ったのは、1954年、テレビ用ブラウン管の蛍光面の仕事を担当した時です。もっと明るい映像を実現しようと、「多結晶粉末である蛍光体に替えて“光る単結晶”を積み重ねる(今日でいう、光半導体のエピタキシャル成長)ことは出来ないだろうか——当時は全くの夢物語ですが——と真面目に考えたことがありました。この“光る単結晶のエピタキシャル成長”はずっと私の潜在意識にあったようです。

当時はまた、トランジスタの草創期で、ゲルマニウム(Ge)単結晶の作製や物性研究が盛んに行われていました。Geは光りませんが、“単結晶”は私には大変魅力的でした。

1958年晩秋、突然、上司の有住徹弥部長のお誘いを受け、創設間もない名大電子工学科に翌春着任。これが、私の“結晶”や“半導体”の研究への転機でした。50年代、自力で作製した高純度Ge単結晶を用いて、物性研究を行って

た大学は、殆ど無かったのではないのでしょうか。当時、セミナーや実験に参加した多くの優秀な学生さんが、卒業後、「電子立国日本」に貢献されたのを誇りに思っています。(写真①)

1960年から、“Geのエピタキシャル成長(基板結晶の上に、結晶軸を揃えて高品質薄膜結晶を成長させる技術)”を始め、



写真① 1962年春、名大有住研究室メンバー(工学部2号館の研究室にて)。前列左端：有住徹弥教授。当時は、学部生も院生も学生服だった。

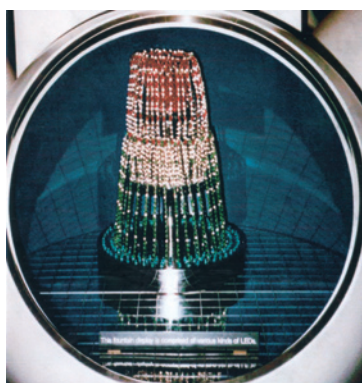
反応管から結晶を取り出す時の期待と興奮から、“結晶成長”にのめり込んで行きました。アイトープを添加した結晶を入れたデシケータを抱えて、雨が降ると泥んこになる四ッ谷通りを横切り、物理の早川幸男先生の波高分析器（当時、名大に1台?）を借り切り同然に使わせて頂いたことなど、懐かしく思い出されます。

このGeのエピタキシャル成長の仕事が縁で、これも新設の松下電器東京研究所に1964年に転出、50年代から温めていた、“電流注入で光る半導体単結晶”即ち発光ダイオード(LED)や半導体レーザ(LD)の研究を始めました。

1960年代、赤色や黄緑色のLEDや赤外のLDは開発されていましたが、青色発光素子の実用化の見通しは全く立たない状況でした。高性能の青色発光素子の実現には、窒化ガリウム(GaN)などエネルギーの大きな半導体の、①高品質単結晶の作製と、②(電気伝導型がプラスの)p型結晶の実現による“pn接合”という構造の実現が不可欠ですが、いずれも極めて困難だったからです。

かねて、GaNの大きな可能性を確信していた私は、1973年、この“GaNのpn接合”による青色発光素子の実現への挑戦を開始しました。

しかし、良質の結晶の作製は困難を極め、試行錯誤の繰り返しでした。70年代後半には、世界中の多くの研究者がGaNの研究から撤退して行きましたが、私は“一人荒野を行く”心境で、愚直にGaNの結晶成長に明け暮れました。その頃、60年代、毎日のように名大でGeの結晶面を観察していたように、失敗したGaN結晶を観るのが日課でした。ある日、凹凸の激しい低品質の結晶の中に、綺麗な微小結晶を蛍光顕微鏡の視野に捉え、一瞬瞳を凝らし、GaNの青色発光素子としての可能性を直感(再認識)し、1978年、もう一度、本研究の原点である“結晶成長”の基本に立ち返ることを決心しました。これはGaNや青色LEDの研究・開発史上、大きな岐路だったと思っています。(写真②)



写真② 1979年に開発した、GaN MIS型青緑色LEDを用いた世界初(?)の三色LEDファウンテンディスプレイ。(1981年、米国シカゴショウに展示)

1979年、GaNの結晶成長に最適の方法として、それまで殆ど用いられていなかった、“有機金属化合物を用いるエピタキシャル成長法”を採用することにしました。この選択が正しかったことは、今日、青色LEDなどGaN系の素子が殆どこの方法で作製されていることから明らかです。

1981年、名大電気・電子系の先生方のお計らいで前回と同じ半導体工学講座にお招き頂きました。今でこそ、企業から大学への転出は珍しくはありませんが、30年前、前回の名大勤務5年間を除き大学での教育・研究実績のない私をお招き頂いた、電気系教室の先生方のご英断に敬意を表しますとともに、感謝の気持ちで一杯です。(写真③)

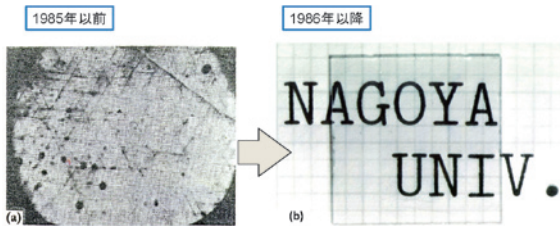
澤木宣彦助教授はじめ平松和政、天野浩院生ら(いずれも当時)の多大の協力を得て、1985年、上記成長法による“低温バッファ層技術”などの開発により従来に比べて格段に高品質のGaN単結晶を創製、1989年、この結晶へのマグネシウム添加と電子線照射によるp型伝導、さらにGaN pn接合型青色LEDや室温誘導放出などを実現しました。これらを世界に先駆けて実現できたのは、若い名大の自由な雰囲気と、電気系教室の先輩・同僚・後輩の先生方の物心両面に亘るご支援並びに、元気で優秀な学生さんの多大の貢献の賜物に他なりません。(写真④、⑤)

因みに、1989年は名大創立50周年、またベルリンの壁崩壊の年です。(写真⑥)

なお、二度の名大勤務で一緒に仕事をした方々や卒業生が、現在、半導体エレクトロニクス分野の“知の三角形”(“知の創出”、“知の普及”および“知の実用化”)において、世界の第一線で大活躍されていることは、私の大きな喜びです。(写真⑦)

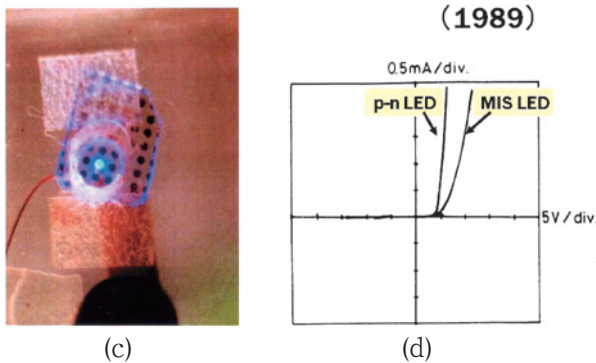


写真③ 1984年春、名大赤崎研究室修士論文発表会のあと、工学部2号館南玄関前で。後列左：澤木宣彦助教授、平松和政助手(当時)。



- | | |
|--|--|
| <p>1985年以前</p> <p>多数のクラック・ピット
凹凸の激しい表面
残留ドナー $> 10^{18} \text{cm}^{-3}$
電子移動度 $\sim 25 \text{cm}^2/\text{V}\cdot\text{sec}$
深い準位からの発光</p> | <p>1986年以降</p> <p>クラックフリー・ピットフリー
鏡面・無色透明
残留ドナー $< 10^{15} \text{cm}^{-3}$
電子移動度 $\sim 700 \text{cm}^2/\text{V}\cdot\text{sec}$
強いバンド端発光</p> |
|--|--|

写真④ サファイア基板の上にエピタキシャル成長させた窒化ガリウム (GaN) 単結晶。(a) : 1985年以前の典型的な GaN 結晶。ピットやクラックが多く、また透明度も悪い、凹凸の激しい結晶。光学的特性や電気的特性も劣悪であった。(b) : 1985年2月、(単結晶の成長温度よりかなり低い温度で堆積させた窒化アルミニウム薄膜をバッファ層とする) “低温バッファ層技術”などの開発により、結晶性のみならず、光学のおよび電気的特性など全ての重要な特性が、同時に、従来に比べて飛躍的に向上した。鏡面かつ無色透明で、下の方眼紙上の文字が鮮明に見える。



写真⑤ (c) : 写真④ (b) の高品質 GaN 単結晶を用いて、1989年、(電気伝導型がプラスの) “p 型 GaN” を世界に先駆けて実現し、直ちに “GaN pn 接合型青色 LED” を手作りした。黒丸の一つひとつが青色 LED。中央の一つの LED のみ光らせている。その青い光が透明な GaN 結晶を透過し、周縁で反射している。(d) : GaN pn 接合型 LED の見事な電流-電圧特性 (左) と従来の GaN MIS 型 LED の同特性(右)。(このように無色透明な GaN 結晶や、pn 接合 LED の見事な電流-電圧特性などは、当時名大以外では見ることが出来なかった。)



写真⑥ 1989年11月11日(土) 理学部長室にて。諏訪理学部長のお世話で、名大創立50周年記念式典招待講演者、米チューレン大学教授 有村章(旧制七高) 先輩を囲んで。左から、秦野節司、福井崇時、有村章、赤崎勇、諏訪兼位、石崎宏矩 各教授。



写真⑦ 新技術事業団(現、(独)科学技術振興機構) 創立35周年記念テレフォニカード(1996.7.1)。

ところで、最初の名大時代、強く印象に残っているのは伊勢湾台風です。名大着任間もない頃、主要大学への大型電子計算機導入の計画が進んでいました。名大を含む複数の大学では、日本電気のNEAC2203機を導入することになり、日電との打ち合わせを、東京三田の日電のクラブで行っていました。1959年9月26日(土) 夕刻、計算機室運営委員長の有住教授の代理として翌日の会合に出席するため、名古屋駅から準急“東海”に乗車しました。しかし、猛烈な風雨(上陸時気圧:929hPa、最大瞬間風速:55.3m)のため安城駅の手前で停車した車中で一夜を過ごし、翌日夕刻やっと、名古屋方面への帰りのタクシーに相乗りすることが出来ました。市内に入ると、水が深くタクシーは動かなくなり、徒歩で千種区鹿子町の我が家に辿りついたのは、28日未明でした。倒れた松の木で真二つに割られた屋根の間に満月が煌々と照っていました。

電気系教室では浸水を免れた教職員2人一組で、浸水家屋にお住まいの教職員を何回かお見舞いに行きましたが、50年前の惨状は昨日の事のように脳裏を離れません。

名大の思い出は語り尽くせませんが、最初の名大時代が私の研究人生の原点です。

誌面をお借りして、ご薫陶を賜った先達やお世話になった先生・友人に感謝の意を表し、併せて、名古屋大学と同窓会のさらなる発展を祈念します。

名古屋大学の国際化を支える全学同窓会海外支部

Overseas Branches of Alumni Association Support Internationalization at NU

全学同窓会では全学同窓会海外支部を組織し、名古屋大学の国際化をサポートしております。そこで、今年3月に設立されたウズベキスタン支部の設立総会の模様のご報告とともに、上海支部、韓国支部、カンボジア支部からの近況報告をいただきました。

名古屋大学全学同窓会ウズベキスタン支部創設される



名古屋大学全学同窓会代表幹事
伊藤 義人
昭和50年工学部卒、昭和52年修士修了
名古屋大学情報連携統括本部副本部長・
情報戦略室長

平成22年3月11日（木）にウズベキスタンの首都タシケントの国際ビジネスセンター2Fで、名古屋大学全学同窓会の9番目の海外支部となったウズベキスタン支部の設立総会が行われました。これは、グローバル30関連の名古屋大学ウズベキスタン事務所（国際ビジネスセンター7F）開所式に合わせて行ったものです。60名を超える名古屋大学卒業生・修了生がウズベキスタンにいますが、大学側からは濱口総長、佐分理事、渡辺副総長、杉浦法学研究科長はじめ開所式参加者にご出席いただき、全学同窓会からは、連携委員会委員長の中野先生と私が参加致しました。タシケントは初春で、滞在中に1日だけ雪が降りましたが、アンズ（杏）の白い花とレンギョウの黄色い花が満開でした。

設立総会では、ウズベキスタンの人達が日本語が分かるということで、今回は通訳をつけずに行いました。設立に向け整備した名簿では、ウズベキスタン人の名古屋大学への留学経験者は60名以上おられ、当日の参加者は、10数名のウズベキスタン人の留学経験者と名古屋大学からの参加者で50名程度となりました。ウズベキスタン支部の支部長は、法学研究科出身者で、ウズベキスタン中央銀行部長のメルガノフ・バホディール（Merganov Bakhdir）さんになりました。

設立総会は、中野連携委員会委員長の司会で始まりました。まず、濱口総長から、支部には卒業生の精神的な支えとなるとともに、アジア諸国との交流に貢献するため、広

い意味での支援を期待していることなどの挨拶がありました。その後、代表幹事の私から、豊田会長の祝辞を伝え、全学同窓会の設立の経緯や理念を説明し、大学が管理することになった電子名簿が、この4月からインターネットアクセスを開始するので住所変更をインターネット経由で行ってほしいこと、今後、名古屋大学の国際交流の拠点になることをお願いしました。また、今回は全学同窓会の個人会員証を支部長の分だけを準備して来ましたが、今後、支部からの正式な名簿をいただければ、全員の個人会員証を発行する旨をお伝えしました。

挨拶の後、濱口総長から、日本から持っていった同窓会支部旗、支部認定書および個人会員証を、ウズベキスタン支部支部長のバホディールさんに渡していただきました。その後、バホディールさんから、今回のウズベキスタン支部設立を同窓生は大変喜んでおり、今後、名古屋大学及び名古屋大学全学同窓会に協力したいという挨拶がありました。

設立総会終了後に、総長を中心として卒業生・修了生が、支部旗を入れて記念撮影をしました。参加者の皆さんに大変喜んでいただいた設立総会になりました。

設立総会の後で、大学主催の事務所開設の祝賀会に、支部旗を持って合流して、楽しい交流のひとつをすごしました。



総長の挨拶



支部長の挨拶



代表幹事の挨拶



記念写真

上海支部

上海名古屋大学同窓会（上海支部）は全学同窓会海外支部の中で3番目に設立された海外支部です。現在100名ほどの同窓生が上海支部に所属しております。名古屋大学上海事務所から2か月に一度「名大トピックス」をはじめ、名大の近況を紹介する資料を皆様へ送っております。同窓生の交流を図るために、不定期に総会をはじめ、旅行、食事会、カラオケ大会など多彩なイベントを開催しております。

名古屋大学上海事務所は上海支部の名簿管理、印刷物の送付や同窓会ホームページの更新などの管理を行っております。なお、上海事務所は同窓会のイベントの日程調整、進行や同窓生の皆様への連絡を担当いたします。上海周辺に限らず、上海支部に加入したい方はどなたでも大歓迎です。上海支部にご加入されたい方がいらっしゃれば、お気軽に上海事務所までご連絡ください。



2009年総会集合写真

Address: 中国上海市淮海西路55号
申通信息広場27階 D 座 名古屋大学上海事務所
TEL: 86-21-62806185
e-mail: office@nushanghai.net
Web: <http://www.nushanghai.net/jp/>

韓国支部

全学同窓のますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。全学同窓会の韓国支部に対して格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

われわれの韓国支部は現在ソウル市支会をはじめ、6つの支会（江原支会、忠青支会、慶北、釜山・慶南支会、湖南支会）があります。各々の支会は1年に3-4回の小会議を開催しています。

韓国支部の総会は年1回開催し、年末の忘年会で皆が集います。これまで韓国支部のメンバーは48名でしたが、今年の8月に経済学部卒業生5人が入りまして53名になりました。

ソウル市支会では、3か月に一度、夫婦同伴で Golf 会を行っており、今回は韓国支部長の王成宇様が77打で優勝しま

した。今年の年末もソウルで忘年会を計画しております。新しい同門の5人が増えたこともあり、皆で楽しみに待っています。全学同窓会の皆さんも、もし韓国にいらっしゃる機会がありましたら、ぜひお声を掛けて下さい。

まずは全学同窓会のますますのご発展と全学同窓会の同門皆さんの健康とご家庭に幸福を祈ります。



忘年会の集合写真

Address: Seoul Korea 138-701
松坡区 可樂1洞 600 青果棟3層21-1号
名古屋大学 総同窓会 韓国支部
TEL: 82-2-3435-4771
Fax: 82-2-3435-4772
e-mail: ds3cma@gmail.com
Web: http://cafe.daum.net/nagoya.uv?t__nil_cafemy=item

カンボジア支部

カンボジアからこんにちは

まず、日ごろのカンボジア支部の活動にご支援いただき、NUAL カンボジア支部を代表して、名古屋大学および名古屋大学全学同窓会に感謝いたします。カンボジア支部は平野真一前名古屋大学総長の公式訪問に合わせ、2008年9月5日に設立されました。カンボジア支部はカンボジア出身の名古屋大学同窓生を会員とし、名古屋大学との協力関係を強化しながら、親交を深めております。現在の主な活動は名古屋大学、同窓生との情報交換と国際協力の促進です。カンボジア支部を代表して代表として、私はこれらの活動に大いに感謝致しますとともに、名古屋大学のイニシアチブ活動の成功を願っております。これらの活動が名古屋大学との協力と友情を強化するだけでなく、未来の若く有能なカンボジアの同窓会会員の活動がさらなる発展をもたらすものと確信しております。

Office: Hor Peng, Representative of Cambodia NUAL
Royal University of Law and Economics, Preah
Monivong Boulevard, Sangkat Tonle Bassac,
Phnom Penh, Cambodia

同窓会支援事業 NUAL Support Project

全学同窓会では、全学同窓会の活動理念に沿った名古屋大学の活動（学生支援、就職支援事業、本部・部局による行事・寄付講義等）への支援を目的として、年2回募集を行っております。平成21年度に採択された事業2件について、担当者より報告いただきました。

NUAL commenced an open invitation type support project from 2004 for Nagoya University's activities (including student activities, employment support service, events and lectures) in harmony with the activity principle of the association. The following are summaries of the activity selected in 2009.

留学生に対する日本企業への 就職活動支援の強化

申請代表者：松浦まち子
(留学生相談室長)

日本企業での就職及びキャリア形成を希望する留学生のために「就職活動支援コース」を15回シリーズで開催した。受講生は7カ国・地域からの留学生25名（定員）であり、内訳は博士前期課程1年20名、2年3名、その他の身分2名であった。コースは「自己分析」「企業分析」「応募書類準備」「面接訓練」の4つのステップに従って講義や実習を行った。

「自己分析」では過去、現在、未来における自分を分析し、各自がドリームマップを作成、それにより自分の目標を設定することができた。

「企業分析」では、企業の基本情報と戦略情報をどのように読み取り自分とのマッチングに活かすか、また企業説明会にはどのような態度で参加すべきかを学んだ。

「応募書類準備」や「面接訓練」では、企業で人事担当経験を持つ講師陣から企業は応募者の何を見ているか、自分を売り込むにはどうしたらよいか等について丁寧な説明があり、企業側の考え方も知ることができた。具体的に30社選んでポートフォリオを作ることが宿題として課せられるとドロップアウトする学生も出たが、出席率のよい学生たちは「面接訓練」を終える頃には、見るからに自信をつけて堂々と自分の考えを述べるようになるようになったのが印象的であった。

2月末には内定を得た先輩留学生との座談会を開催した。有名企業だけを考えるのではなく、自分が本当にやりたいことができる会社を探すことの大切さや、失敗を恐れず挑戦し、失敗した場合には原因を分析してあきらめずに進むこと等、先輩からの貴重なアドバイスと励ましがあつた。

このコースを受講した学生たちが、内定を得て、来年4月には立派な社会人として日本企業で生き生きと働いていることを期待している。

最後に、2009年度「留学生のための就職活動支援コース」を開講できたことは、偏に全学同窓会大学支援事業助成金のお陰であり、心より感謝申し上げます。

名古屋大学における障害を有する学生の 支援体制の構築

申請代表者：梅村祐子
(学生相談総合センター 特任助教(専任相談員))

全学的見地から、障害学生への配慮に基づいた支援体制および実施計画を策定するため、その足がかりとして本事業を企画しました。

実施した事業の成果は以下のとおりです。

聴覚障害学生高等教育支援シンポジウムに参加し各大学から発信される情報収集や、大阪大学・京都大学における障害学生への支援状況についての調査は、本学の支援体制整備への参考となりました。

3月11日(木)には筑波大学シニア・アドバイザーの鳥山由子先生を講師に迎え、「障害のある学生の支援における大学の役割について」と題した講演会を開催し、35名の教職員及び学生が出席しました。講演後、多数の質問や発言があり、有意義な講演会となりました。

また、支援をサポートする学生スタッフの募集チラシを作成し、ガイダンスでの配布や各部局での掲示等により、学生に広く周知する予定です。支援活動をすることは、お互いが成長できる貴重な体験になると考えています。

また、平成22年度から新たに学生相談総合センターに障害学生支援室が設置されることとなり、関連書籍や、音声入力ソフトなどの物品を購入し、具体的な支援体制の実施に向けて第一歩を踏み出しました。

全学同窓会のご支援により、本事業は本学の障害学生支援体制の構築に、十分な役割を果たすことができたと思えます。

支部・部局便り News from the Alumni Associations of Different Schools and Regions

部局や地域ごとの同窓会から寄せていただいた便りを掲載します。それぞれが全学同窓会と連携しながら活動しています。

Here you can find announcements and news from alumni associations of schools and/or regions. These associations and NUAL are cooperating with each other to everyone's benefit.

関東支部 NUAL Kanto Branch

丹羽宇一郎氏 中華人民共和国全権大使に就任

丹羽宇一郎関東支部長（全学同窓会副会長）が、6月17日付で中華人民共和国駐劄特命全権大使に就任された。大使のスケジュールは外務省管轄となったが、関東支部の幹事や37年法学部卒の同期生は、赴任前に少しでも会いたいと、移動の合間に学士会館に立ち寄ってもらうことに成功した。民間からの駐中国大使の起用は1972年の日中国交正常化後をはじめとなる。わが名大から大使を出したことも、非常に喜ばしいことであるが、日本にとって重要な外交拠点である中国大使の役目は重い。皆かたずをのんで丹羽氏の発言を聞いた。

「私もこの年になり、これを受けるかどうか、本当に苦渋の決断でした。実は、3か月位前に総理・大臣から話がありました。が、ワIFEにも言えない。この仕事をやることは、最初はNOでしたが、今の日中関係を考えるとだれがやっても、たたかれて傷がつく。若者がやると、まだ15-20年先があるので、あとがなかなかむつかしい。余命いくばくもない自分がやろう、という結論に達しました。

『とにかく2-3年のこと、病院に入っていたと思えばいい。皆にこの気持ちがあわかってたまるか。』

『男は国のためにやる!』

という青臭い気持ちです。この学生時代からの青臭い気持ちを死ぬまで大事にしよう、これが私の生き様です。ということで、国の為にやりましょう、前向きに行こうと承諾しました。たとえ傷つき汚れるかもしれないが、いくばくもない命、どうということはない。今まで中国にいいたい放題言ってきたので、中国からアグレマンが出るか…が逆に気



丹羽大使を囲んでの集合写真

に入られたみたいで、やることになりました。一番びっくりしたのは、ワIFEでした。

『心中 まことに 複雑。』

だけでもここまで来たらやり遂げなければいけない、とこれまでの歴代総理や 歴代大使、政治家の皆様、学者の先生方皆さんの声を聞いて、防衛関係・政治関係の勉強をはじめ、両国の歴史の勉強は学生時代みたいです。もう後戻りはできないんだから、やります。皆さまにも、ご支援いただきたくお思います。2-3年で帰ってまいります。その時、元気で又お会いできれば幸せであります。』

大使は7月31日に着任された。命を国にささげた丹羽氏の活躍を皆祈っている。 (文責:片岡大造)

フジテレビ（東京）「名大に挑戦」に同窓生出演 —たけしのコマネチ大学数学科—

数学好きの方にはご存じの、第35回国際エミー賞にアジア代表としてノミネートされたフジテレビより放映されている「コマ大数学科」が、国立大学入試問題に挑戦する第2弾として「名大に挑戦」というテーマですることになり、関東在住の名大同窓生に連絡を取った。が不在や都合つかずで困り、東京愛知県人会理事の佐竹康峰氏（東京スター銀行取締役経済51年卒）より、人選依頼があった。名大の名折れにならぬようにと超緊急であったり、社会連携課-佐分理事-理学部宇沢教授の推薦で、佐藤達雄さん（㈱アーベルソフト社長 理学部50年卒）という適任者を紹介してもらい出演了解を得て、即事務所で収録となった。ダンカンなどコマネチ大学数学研究会メンバーの都合もあり、西早稲田の佐藤社長と連携会社の会議室で、早速問題を解いてもらうことになった。仕事の携帯電話が入る中、研究会メン



コマネチ大数学研究会のメンバーと佐藤社長・佐竹・片岡

バーに解き方の説明をしながら、回答を解いた。ビートたけし、現役東大生の女子2人、コマネチ大学数学研究会推薦の佐藤社長の3組が、出題された問題に挑むタイムトライアル。結果は、佐藤社長の勝ちで、初めて外部で、フィールズ賞の栄誉を得た。超短時間のなかご協力いただいた皆様に感謝している。映像をご覧になりたい方は、東京連絡所か、社会連携課までご連絡ください。

(文責：片岡大造)

関西支部 NUAL Kansai Branch

関西支部では、平成22年7月30日(土)、大阪弥生会館に於いて、支部幹事会が開催され、12名の幹事が参加しました。幹事は関西の各学科同窓会の支部長やその他幹部の人達が指名されており、今回は各同窓会の動きについての調査が実施されました。結果の概要は下記表の通りで、各同窓会とも、年1回の総会を開催され、講師を招いての講演なども行い、懇親会も開催して、会員同志の活発な交流を行っています。関西地区在住の会員の皆様には、今後ぜひともご出席いただくようお願いいたします。

関西キタン会	会長	伊貝武臣 S43卒 (経済)
	副会長	入谷善久 S43卒 (経済)
	総会開催	2009年7月 (年2回開催)
	前回参加者	35名
応化会 関西支部	特別講演他	DVD 観賞 (ノーベル賞受賞の秘密)
	会長	爾見軍治 S29卒 (応化)
	総会開催	2010年6月 (次回 2011年6月工場見学会予定)
	前回参加者	58名
東山会 関西支部	特別講演他	西口元三氏 S36卒の講演 「中国生活30年」
	会長	安田幸伸 S39卒 (機械)
	総会開催	2010年11月6日 (年1回開催)
	前回参加者	30名
関西名法会	会長	黒田幸雄 S28卒 (法学)
	総会開催	2009年11月 (次回 2010年10月予定)
	前回参加者	20名
	特別講演他	杉浦一孝前法学研究科長の講演
セコイア会 関西支部	会長	加藤壽郎 S43卒 (農学)
	総会開催	2009年11月 (次回 2010年11月予定)
	前回参加者	20名
	特別講演他	野村 章氏 S45卒の講演 「医薬品の品質管理、品質保証の問題」
鏡ヶ池会 関西支部	支部長	鳥居 剛 S54卒 (土木)
	総会開催	休会中 (2010年11月頃開催予定)
	前回参加者	15名
	二葉会 関西支部	支部長
総会開催		2010年11月27日 (年1回開催 11月最終土曜日)
前回参加者		29名

名古屋大学遠州会 NUAL Ensyu Branch



集合写真

名古屋大学遠州会の活動

名大遠州会の第15回同窓会と第8回総会が平成22年6月12日(土)夕刻よりオークラクトシティーホテル浜松にて、来賓として昨年に続いて濱口名大総長と伊藤全学同窓会代表幹事をお迎えし、会員90余名が出席して盛大に開催されました。

総会では平成20、21年度の事業報告と会計報告を行い、役員改選が行われ、庄田武副会長(教 S31年)が会長に選任され、新たに副会長として寺尾俊彦氏(医 S35年)が選任されました。事務局が内山宏之氏から原田憲道に交代しました。

庄田会長の挨拶に続いて濱口総長からは同窓会組織の海外展開、7大戦での名大の活躍、大学の国際化(海外大学との連携・留学生の増員・海外人材の育成・英語教育強化など)、大学の財務状況、YLC 若手指導者育成プログラム、大学基金への支援要請など多岐に渡って、大学の現状と将来ビジョン、その実現に取り組む大学の熱い思いを親しみやすく、かつ力強く語られました。伊藤代表幹事からは全学同窓会の活動近況やホームカミングデイの計画、名大カードへの加入要請などのお話がありました。

総会の様子は静岡新聞と中日新聞の記事に取り上げられました。

総会後の懇親会では例年になく多くの初参加の若い層や女性会員の出席があり、ボーカルとギター演奏をバックに華やいだ雰囲気が始まりました。濱口総長も各テーブルを廻って親しく歓談したり、一緒に記念写真に入って頂いたりして大いに盛り上がりました。

来年度は6月11日(土)を計画し、全学同窓会のご尽力でノーベル賞受賞の益川先生のご講演が実現する予定です。今から準備活動をスタートさせて行きたいと考えています。(事務局 原田 記)

活躍する会員たち NUAL People in Action

「活躍する会員たち」では、同窓会会員の各界におけるご活躍ぶりを紹介しています。第11回は、法学部を卒業され、環境事件を中心として弁護士として活躍されている、赤津加奈美さんと、大学院国際言語文化研究科を修了後、マレーシアの国立マラヤ大学で日本語教育を担当されている黄雁玲^{ウオンガンリン}さんに登場していただきました。

The “NUAL People in Action” column features our alumni playing active roles in various fields. In this issue, we meet Kanami Akatsu, a graduate of the School of Law whose career as a lawyer focuses on environmental cases, and Wong Ngan Ling, who completed an MA at the Graduate School of Languages and Cultures and is today in charge of Japanese education at the University of Malaya in Malaysia.

赤津加奈美さん



1963（昭和38）年	愛知県生まれ
1986年3月31日	名古屋大学法学部 卒業
1987年10月20日	司法試験合格
1988年4月1日	司法研究所入所（42期）
1990年4月3日	弁護士登録（大阪弁護士会）
1997年9月1日	赤津法律事務所開業
2005年3月25日	弁護士法人赤津法律事務所を設立

司法試験合格まで

もの心ついた頃、世の中は「公害」だらけでした。テレビのニュースで、公害の被害を受けた普通の人たちが大企業相手に裁判で勝ち、「勝訴」の幕を掲げる場面（業界用語で「旗出し」といいます）を見て、「弁護士ってカッコイイ」と思いました。

名古屋大学は、地元だったことと、2次試験が、英・数・小論文だけだったことから（不純な動機ですみません）受験しました。まだ、構内に学生運動の雰囲気が残っていた時代で、社会と自分の関わりなど考えさせられました。学部では、「公害環境問題に興味があるなら」と先輩に勧められ、森嶋昭夫先生のゼミに在籍しました。当時は、森嶋先生はじめ、司法試験委員の先生も多く、受験を志す多くの先輩方にも恵まれました。ただ、ゼミでは影の薄い存在で、毎回、損害論に関する論文にもとづいて議論するのですが、「包括一律請求」の実務的意義などまったくわかっていなかったなあと反省しています。

イソ弁時代

一西淀川公害訴訟と大阪市食糧費情報公開訴訟一

大阪弁護士会に登録し、早速、西淀川公害訴訟の弁護団に入れてもらいました。弁護士として1年経った91

年3月、1次訴訟の判決がありました。大型公害裁判では「判決行動」するのが伝統です。裁判所の周囲を約6000人も全国の患者さんや支援団体の方々を取り囲み、上空をヘリコプターが何台も飛んでいました。弁護団と原告団を含む患者さんたちが各被告企業の本社に押し掛け、控訴の断念と謝罪を求めて交渉します。新人弁護士の私の役目はその交渉団にお弁当を届けることでした。正直、「なあんだ」と思いましたが、意外に大切な役目と思い知らされたのは、某被告企業が、交渉中の患者さんや弁護士を兵糧攻めにすべく、本社出入口に若い社員を立たせて、差し入れを妨害したときでした。今はもう、こういう大型行事も滅多に見られなくなり、歴史的な経験をさせてもらいました。西淀川公害訴訟が最終的に解決したのは98年7月末でした。

イソ弁時代を費やしたもう一つの裁判は、大阪市相手の食糧費情報公開訴訟でした。弁護士登録直前の90年初めに大阪市公金乱脈事件が発覚し、市民グループ「市役所見張り番」が結成され、不正支出金の返還を求める住民訴訟が起こされていました。遅れて弁護団に入った私に割り当てられたのは、住民訴訟の証拠入手のための、食糧費の決議書類等の情報公開訴訟でした。食糧費とは飲食代のこと、通常は接客用の茶葉購入

などですが、大阪市では北新地で毎晩のように議員と職員がハシゴ酒する遊興費まで税金で賄われていました。当時はまだ情報公開法もなく、最高裁は大阪府知事交際費訴訟でガッチリと行政の秘密主義を擁護する姿勢を示していました。ヴォーンインデックスもインカメラも最先端の議論で、提訴したものの、暗闇に下手な鉄砲を連射するような感じでした。ただそのうち、「官官接待」批判の世論が沸きあがり、宮城県や東京都で公開の判決が出されました。そして97年3月、ほぼ全面公開の判決をもらうことができ、高裁も維持してくれました。その後、国では情報公開法が制定されました。ところが、約5年の店晒しの後、最高裁は弁論を開き、飲食の相手方について大幅に公開範囲を狭める差戻し判決をしました。ようやく溜飲を下げる事ができたのは、差戻し後の高裁で裁判官に恵まれ、事実上のインカメラ手続によって判断してもらったことでした。ちなみに今、大阪市の情報公開審査会の委員を弁護士会推薦でしていますが、隔世の感があります。時代は変わることを実感しています。

独立してから 一食べていけなくても環境裁判する!—

01年10月、小田急事件で東京地裁の取消判決、03年1月、もんじゅ事件で名古屋高裁金沢支部の無効確認判決、同年5月、川辺川ダム事件で福岡高裁の取消判決が出されました。独立して資金繰りに追われ、環境事件では食べていけないからなあ、と初志を忘れかけていた私に、これら判決は希望を与えてくれました。食べていけないうちから始めなければモノにならないことは諸先輩方の教えてくれているところです。それで、事件でしか勉強できない私は、神戸空港公金差止め住民訴訟、永源寺第2ダム土地改良事業計画取消訴訟、奄美ウミガメ(砂利採取差止め)事件、もぐれ阪神(阪神なんば線工事施工認可取消)事件、な



永源寺第2ダム湖水没を免れた鈴鹿山系古語録谷の奥地の写真



沖合海底の砂利採取のために砂浜が痩せてしまった奄美大島大和村戸円のヒエン浜と戸円浜の遠景



最後の原発新規立地が計画されている山口県熊毛郡上関町長島の田ノ浦と住民の9割が反対する祝島

どの環境事件の弁護団に積極的に入れてもらいました。

永源寺第2ダムは、事件が控訴審にかかった頃、事業再評価の対象となって計画変更が答申されました。その理由をいろいろ調べるうちに、事業計画決定の際にボーリング調査をしないままだったことが判りました。まさかと思いましたが、国は自白(事実を認めることです)し、設計基準違反が争点として浮上してきました。結局、高裁は、ボーリング調査等を怠った設計基準違反が事業費の大幅増額を招き、土地改良法が当初計画の策定に求めている費用対効果規定に違反するとして、取消判決をしてくれました。最高裁も約2年保留した後、国の上告受理申立を退けました。最高裁にリベンジできたことがうれしかったです。

最後に

今年で弁護士生活20年ですが、エキサイティングで幸運だったと思います。

最後になりましたが、活躍されている諸先輩方を差し置いて寄稿させていただいた非礼をお詫び申し上げますとともに、このような機会を与えてくださった方々に深く感謝致します。

ウォン ガンリン
黄 雁玲さん



マレーシア、ネゲリ・センビラン州セレンバン市生まれ。2005年、名古屋大学大学院国際言語文化研究科を修了後、マレーシア私立拉曼大学に准教授に就任。現在、マレーシア国立マラヤ大学言語学部上級講師。2010年1月に「Silent Communication of Japanese Society」を出版。精力的に研究活動を行い、国際的に活躍する傍ら、バドミントン、テニス、ヨガ、ラインダンスなどを週3で楽しむスポーツウーマン。

10年に及ぶ日本留学を経て2004年の10月にマレーシアに帰国した私は、2005年のバレンタイン・デーから私立拉曼大学に准教授（assistant professor）として勤め始めました。そこでは初級日本語を担当し、1週間に講義2コマとチュートリアル（個別指導）2コマと担当コマ数も少なく、日本人の同僚と指導法について議論したり、また中国系、マレー系、インド系など他民族の同僚との交流を重ねるなど、楽しい教鞭生活を2年程過ごしました。一方で、拉曼大学は私立大学であるため、研究補助金の獲得も難しく、思ったような研究活動ができず、意欲も日に日に減退する状況に不安を感じ始めていました。丁度その頃、幸運に恵まれ、1905年に創立されたマレーシアで最も歴史のある国立マラヤ大学の言語学部に上級講師（Senior Lecturer）として採用され、勤務することになりました。2007年のことです。

マラヤ大学はマレーシアにおいて日本語を専攻することが可能な唯一の大学であり、日本語音声学、日本語形態論、日本語構文論、日本文学・日本史、日本伝統・現代文化、日本語特殊演習、日本語翻訳、日本語史など多岐にわたる分野が必修科目として設けられています。これを日本人教師2名と、マレーシア人教師3名の計5名で担当するため、一人当たりの担当授業数は多く、授業準備に追われる日々です。さらに、卒業論文や修士論文の指導も加わり、学会発表や学術雑誌への投稿も義務付けられているため、連日夜11時を回らないと帰宅できないほど忙しいですが、充実した楽しい日々を送っています。

研究面では、名古屋大学に提出した博士論文を出版するという予てからの念願を果たすべく、「論文を本にか

える技術」という講座に5日間泊まり込みで参加し、今年ついに『Silent communication of Japanese society』という本を出版することができました（<http://umpress.um.edu.my>（著者名 Wong Ngan Ling）で検索できます）。日本留学では、日本人のコミュニケーションにおける沈黙の意味機能とその原因を究明するため、修士課程では日本の映画を通し、また博士課程では調査アンケートとインタビューを通じて研究を進めてきましたが、日本人の沈黙を研究すればするほど、マレーシア人の沈黙にはどのような意味・機能が含まれているのか、日本人と比較してどう異なるのかについて関心を抱くようになりました。その頃（2008年）、母校である名古屋大学大学院国際言語文化研究科の副研究科長、田所先生より日本学術振興会の研究に参加しないかという誘いをいただき、マレーシアのマイノリティである「インド系のアイデンティティと沈黙の関係」について取り組み始めました。この研究成果は、2012年に名古屋大学で開催される国際シンポジウムで発表する予定となっています。このような機会を与えてくださった田所先生に、この場を借りて深くお礼申し上げます。研究活動としてはこの他にも、オーストラリアやシンガポール、ハワイなどの国際大会で「日本人のコミュニケーションにおける沈黙」と「マレーシア人の沈黙」について発表しました。このような国際的な研究活動はマラヤ大学から多大な支援を受けて初めて可能となるものであり、貴重な経験を積み重ねることができるのはとても有難いことです。

プライベートでは、スポーツの大好きな私は余暇を利用して、週に3回ほど、バドミントン、テニス、ヨガ、ラインダ

ンスをやっています。そして、年に一度開催される全国国立大学教職員スポーツ大会にも欠かさず参加しています。得意な種目は、走り幅跳び、槍投げ、4×100mと4×400mのリレーで、毎年胸をときめかせて楽しみにしている行事の一つです。また、旅行を通じて異文化を体感することも好きで、これまで母と共に、中国の上海、杭州、蘇州、南京、無錫、オーストラリアのメルボルンなどに行ってきました。来年はヨーロッパにも足を伸ばそうかと思っています。

今、マラヤ大学では、入学式を終え、新入生がオリエンテーションを受け、在學生はキャンパスに戻りつつありま

す。7月12日からの新学期に備え、言語学部アジアヨーロッパ言語学科日本語専攻にも13名の新しい學生が仲間入りします。

時に友人から光をもらい自分が輝き、また時に友人に光を当て相手を輝かせる。志を抱く若い學生達にはそんな「太陽と月の関係」で、ここマラヤ大学で存分に学び切磋琢磨してほしいと願っています。そして、我々教師は、互いの良さを引き出すことこそが真の教育であると肝に銘じ、學生たちを伸ばしていきたいと思っています。



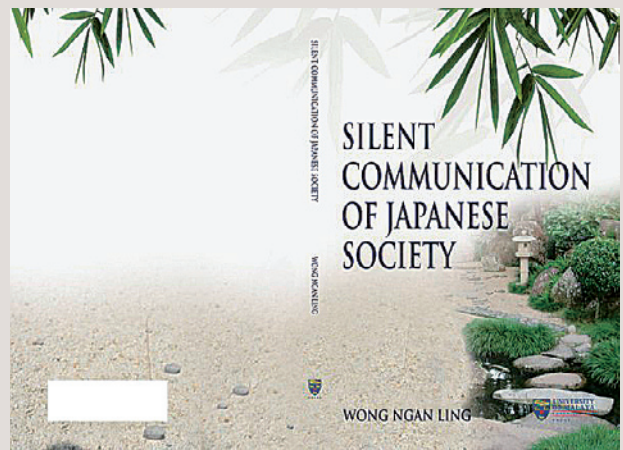
ハワイのポリネシア文化センターにて



2010年度マラヤ大学教職員スポーツ大会にて



2010年度国際学会（ハワイ）での懇親会にて



『Silent communication of Japanese society』の表紙

■平成22年春の叙勲受章者決まる —本学関係者5名が喜びの受章—

平成22年春の叙勲の受章者が発表され、本学関係者では次の方々が受章されました。

■教育研究功労 関係

瑞宝重光章 小川 英次 名誉教授(国際開発研究科)
元経済学部長
元大学院国際開発研究科長
名誉教授 (中京大学)
梅村学園学術顧問
元中京大学長・大学院経営学研究科長・教授

瑞宝中綬章 可児島俊雄 名誉教授 (経済学部)
元名古屋学院大学大学院
経済経営研究科長・教授・特任教授

瑞宝中綬章 大塚 昭夫 名誉教授 (工学部)
元岐阜職業能力開発短期大学校長

■保健衛生・看護功労 関係

瑞宝双光章 森下 芳孝
元医学部附属病院医療技術部長

■学校業務功労 関係

瑞宝単光章 石橋 幸康
元医学部・医学系研究科調達課機械保守工
(名大トピックス No.205より)

■川合情報科学研究科准教授と東山理学 研究科教授が日本学術振興会賞を受賞

川合伸幸情報科学研究科准教授と東山哲也理学研究科教授が、第6回(平成21年度)日本学術振興会賞を受賞しました。

この賞は、将来の学術研究のリーダーとして、後のノーベル賞候補者となるようなフレッシュな研究者をいち早く顕彰することにより、今後の研究にチャンスを与えブレークスルーを促そうとするもので、今回は364名の被推薦者の内、25名が受賞しました。

今回の受賞対象となった研究テーマは、川合准教授が「認知と学習の起源に関する比較認知心理学的研究」、東山教授が「花粉管ガイダンスをはじめとした植物生殖の動態および分子機構の解明」です。

なお、授賞式は、3月1日(月)、東京都台東区の日本学士院において行われました。(名大トピックス No.202より)

■平成22年度科学技術分野の文部科学 大臣表彰者が決まる

平成22年度科学技術分野の文部科学大臣表彰受賞者が決定し、本学から9名が受賞しました。

■科学技術賞 (研究部門)

受賞者：浅岡 顯 名誉教授
中野 正樹 工学研究科教授
野田 利弘 工学研究科教授
中井健太郎 工学研究科助教
業績名：弾塑性力学に基づく地盤の静的・動的応答解明の体系的な研究

受賞者：大森 博司 環境学研究科教授
業績名：構造形態創生法の開発と構造デザインへの応用に関する研究

受賞者：小澤 正直 情報科学研究科教授
業績名：量子測定理論の先駆的研究

受賞者：後藤 俊夫 名誉教授
堀 勝 工学研究科教授
業績名：ラジカル制御プラズマプロセスの先駆的研究

■若手科学者賞

受賞者：小田 寛貴 年代測定総合研究センター助教
業績名：放射性炭素年代測定法を用いた古文書・古筆切の研究
(名大トピックス No.204より)

■佐藤彰一特任教授が日本学士院新会員 として選定される

佐藤彰一本学特任教授が、12月14日(月)、日本学士院新会員として選定されました。

同院は、学術上功績顕著な科学者を優遇し、学術の発達に寄与するため必要な事業を行う機関であり、会員は学術で顕著な功績を修めた科学者から選ばれ、終身任期の国家公務員特別職の身分が付与されます。現在、会員は、人文科学部門で62名、自然科学部門で71名の計133名です。

佐藤特任教授の専門は西洋中世史で、研究課題はローマ帝国が崩壊した後に、どのようにして中世ヨーロッパ世界が形を整えていったかを、残された史料を通して解明することです。
(名大トピックス No.201より)

■新しい南部食堂が完成

南部食堂は、平成21年6月の旧南部食堂の撤去を皮切りに8か月をかけて工事を行い、平成22年2月末に完成しました。旧南部食堂は、昭和45年に建設されてから40年が経過し、施設の老朽化や狭隘化が著しく、近年の食の安全性への対応や混雑緩和などの改善が求められていました。従来から、南部食堂は東山キャンパスの南西部に位置し、全学教育を受ける初年次学生をはじめ多くの学生に利用されてきているため、新しい南部食堂は、「行けば誰かに会える場所」「行けば何かの刺激、を受ける場所」「学生生活の大切な舞台のひとつ、となる居心地の良い食堂」として、ただ食事を済ませるだけの場所ではなく、食事以外にも活用できる新たな食堂として改築を行いました。建物は、鉄骨造地上2階地下1階、延べ面積2,714m²、外装材は断熱性の素材を採用、窓ガラスを複層ガラス、屋根は屋上緑化とすることで熱負荷の低減を図り、結露防止や断熱性能の向上を図りました。建物の構造は、外周部に水平耐力を持たせた耐震壁をバランス良く配置し、内部の丸柱には鉛直荷重のみを負担させて柱の持つ役割分担を明快にした構造システムを採用しています。これにより、内部の丸柱を細くして柱の存在感を低減させ、視線が行き交う軽やかな大空間を実現することができました。食堂の内部には、効率的に自然の光・風を呼び込むためのライトコートを設け、1階は見通しのきくカフェテリア食堂とし、新入生でも迷うことなくスムーズに食事することができる空間としています。座席数は428席を用意しています。また、300人規模のパーティにも対応でき、2階は複合食堂とし、屋外にデッキを設けて季節の変化が身近に感じられる場所になっています。座席数は284席



南部食堂の東面



2階複合食堂

を用意しています。全体の席数は、旧食堂の座席数320席から712席と2倍強の座席を確保しています。また、スライディングウォールにより小規模のパーティ、会議、自習スペース等のニーズに柔軟に対応できるよう部屋を分割して利用することができます。その他に、映像装置を4箇所設置し、打合せや発表の場として活用できるようにしています。

外観は、内部空間の広がりそのまま外部に表出させることで、表面だけを着飾ったものではない、奥行きのあるものとなっています。食堂へのアプローチ外部階段には、日除け・雨除けのための庇を設け、混雑時の行列にも配慮しています。また、各階店舗・食堂の名称は、公募によって下記のとおり決まりました。新しい南部食堂が、末永く学生・教職員に親しまれ利用されることを期待します。

■1階カフェテリア食堂：「Mei-Dining（メイ ダイニング）」

■2階複合食堂：「彩（さい）」

■地階テイクアウトショップ：「NU だが屋（にゅーだがや）」

（名大トピックス No.204より）

■名古屋大学学童保育所ポピンズアフタースクールからのお知らせ

名古屋大学学童保育所「ポピンズアフタースクール」の開所から1年が経過しました。この間、大学の教員または学生のみならずからの様々な支援により、学童保育所では、魅力あふれるプログラムが展開され、好評を得ることができました。次に示しましたのは、そのうちの、ほんの一例です。

- ・太陽地球環境研究所教員による星見会
- ・総合保健体育科学センター教員によるテニス教室
- ・文学研究科教員による一日考古学体験、マインドマップ教室、同研究科非常勤講師による書道教室等
- ・環境医学研究所名誉教授による宇宙に関連したプログラム
- ・留学生による語学教室
- ・サークルの学生によるマジックショー、プチコンサート、茶道体験、セル画作り体験、クラフト体験、防災講習等
- ・医学部学生による保健教育
- ・理系女子学生「あかりんご隊」による科学実験教室
- ・保護者による実験プログラム、手作りおやつプログラム等

今後も、大学が持つ人的、知的、物的財産を最大限活用して、子どもたちの好奇心を刺激するようなプログラム開発を行っていく予定です。学童保育所では、全学同窓会の会員のみならずのお子さまにも門戸を広げ、一定枠をご用意しておりますので、入所をご希望される方は、ぜひ、ご一報下さい。

名古屋大学学童保育所ポピンズアフタースクール
（こすもす保育園2階）

Tel: 052-782-5250

e-mail: nagoya.u-pas@poppins.co.jp

「名古屋大学カード」でつながる大学支援

年会費永年無料！ 家族会員（1名）も無料です。

加入者は、6,000名を超えています!!



カード利用代金の一部が全学同窓会に還元され、名古屋大学の学生活動、就職支援事業等を支援しています。

Webでスピード入会 <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

事務局からのお知らせ From the NUAL Office

●支援会費のお願い Call for contributions

名古屋大学全学同窓会の活動は、皆様からの支援会費、寄附金に支えられています。支援会費は年度ごとのお支払いとなります。皆様のご協力をお願いします。

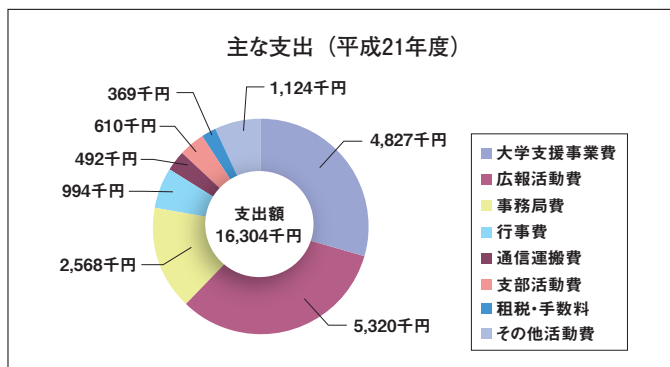
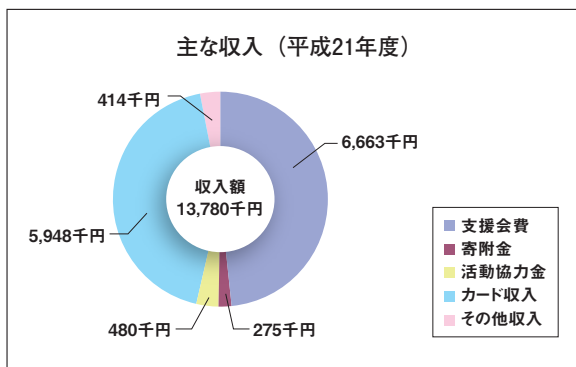
○支援会費 Supporting Fee 支援会員 Supporting member : 一口 5,000円

支援法人会員 Supporting institution : 一口 50,000円

○支払い方法 郵便振替 Post Office Account 口座番号：00860-8-113043

自動引落 利用ご希望の方に、預金口座振替依頼書をお送りします。関係書類をご入用の場合は、同窓会事務局にご連絡ください。

支援会費、活動協力金等は、大学支援事業や広報誌作成等の設立理念に合致する活動に使わせていただきました。



名簿商法にご注意下さい!

名古屋大学、全学同窓会、支部及び部局同窓会とは関係のない組織から、「卒業生名簿」の作成や頒布に関する代金を請求される場合があります。不審な場合は、先方についてよくご確認の上、慎重にご対応下さい。

編集後記

本号は赤崎特別教授からご寄稿をいただくとともに、国際化をはかる名古屋大学を海外でサポートする海外支部を特集しました。次号ではホームカミングデイにおける益川特別教授と海外支部の方々とのトークセッションを特集する予定です。国際化する名古屋大学を全学同窓会はサポートしていきます。読者の皆様からのご意見をお待ちしております。

(全学同窓会広報委員会)

NUAL Newsletter No.14 平成22(2010)年10月発行

Nagoya University Alumni Association

NUAL 名古屋大学全学同窓会

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 TEL/FAX 052-783-1920

E-mail nual-jimu@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

ホームページ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

編集：名古屋大学全学同窓会広報委員会